

年 組 名前：

風林火山

ノルウェーには世界でも珍しいスポーツ政策がある。子どもの全国大会がない。国が禁じているのである。なぜか。ノルウェー体育大のカリ・ファスティング教授に尋ねた▼教授によれば、子どものスポーツに関するガイドラインが制定されたのは1976年。趣旨を簡潔にまとめれば、子どもにとってスポーツとは「楽しむべき」ものであり、「競うもの」ではないということだ▼12歳までは「選手権」と名の付く全国、欧州、世界の各大会への参加が禁じられている。選手の優劣につながるランキング表の作成が認められるのは11歳から。大会で賞が授与される場合は、全ての子どもが受け取らなければならない▼競争を禁じたことで「早期にスポーツをやめてしまう子どもが少なくなった」と教授は指摘する。「入り口」が広いのも特徴で、サッカーのW杯でノルウェーのエースとして活躍したハランド選手は幼少期に、陸上やハンドボールなどサッカー以外のスポーツに親しんだ▼人口約525万人の小国だが、W杯では8強入り。ミラノ・コルティナ冬季五輪では最多18個の金メダルを獲得した。ワールドクラスのFWも輩出した同国のスポーツ政策に、日本も見習うべきことが山ほどあるような気がする▼教授が提示してくれた資料の一節を引く。「子どもは小さな大人ではない。すべてのスポーツは、すべての子どもに開かれていなければならない」

(2026年7月26日付 山梨日日新聞1面)

問1 冬季スポーツやサッカーの強豪国ノルウェーには、「子どものスポーツに関するガイドライン」があります。その趣旨を簡潔にまとめれば、子どもにとってスポーツとは何としていますか。

・子どもにとってスポーツとは「.....」ものであり、「.....」ではない

問2 ガイドラインでは、だれが何に参加することが禁じられていますか。

.....

問3 大会で賞が授与される場合は、どのような対応をしなければいけませんか。

.....

問4 競争を禁じたことで、どのような成果がありましたか。

.....